

西宮

えびす

び

す

新春号

平成13年

NISHINOMIYA EBISU

西宮  
えびす

平成13年  
新春号



▲平成13年  
西宮えびすテレホンカード

## 編集室から

2000年の節目の年に船渡御が400年ぶりに再興できましたことは、誠に意義深いことであったと思います。大学の授業の一環としてお祭りへの参加が行なわれるなど、時代を反映した形態で市民のまつりとして地域に輪が広がり、年毎に参加する船が増え、益々賑やかになっていくことを願います。それにしても、あの雨がよくあがったもの、まさにご神慮の賜物であるというのが参加者の共通の思いでありました。氏子・崇敬者をはじめ、船渡御再興にご協力・ご尽力頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、「福男選びに参加して、今一番えびす様に守られている」とおっしゃる平尾さんのご回復と善斉さん、吉田さんの益々のご活躍を祈念いたします。(英)

西宮えびす平成13年新春号(通巻第14号)  
平成12年12月1日発行  
発行/西宮神社  
〒662-0974  
兵庫県西宮市杜家町1-17  
TEL0798-33-0321  
FAX0798-33-5355  
編集/講務課広報  
印刷/小西印刷所  
協力/いづつか写真室・大手前大学  
神戸新聞社・西宮市消防局  
ながさき

お知らせ

## 年末年始の主な行事

平成十二年十二月

### 23日・巫女研修

初詣・十日えびすに笑顔で参拝者をお迎える臨時奉仕の巫女の研修会が行なわれます。白衣に緋袴姿で説明を受け、心の準備を整えていきます。



巫女研修

### 27日・煤払祭

清々しく新年を迎えるため、竹ざおの先端に笹の葉をつけた巨大なほうきで本殿の煤をお払いします。



煤払祭

平成十三年一月

### 1日・歳旦祭・若水神事

新年を祝い、社会の平和繁栄をお祈りします。灘の酒造家の代表が宮水を汲み出し、神前にお供えます。



奉射事始祭

### 2日・奉射事始祭

藁目と呼ばれる箭矢を空中に放った後、西宮弓道連盟の会員が弓の引き始めを行ないます。

### 5日・百太夫神社祭

えびす信仰を全国に広めた傀儡師の祖神をお慰めするお祭り。えびす舞が奉納されます。



百太夫神社祭

### 8日・大まぐろ奉納式

十日えびすを前に神戸市東部水産物卸売協同組合などから約300kgの本マグロが奉納されます。



招福大まぐろ

### 9日・宵えびす

午後2時から有馬温泉献湯式が行なわれます。金泉と呼ばれる名湯を湯女に扮した芸妓さんが桶に移し、湯もみを行ないます。



有馬温泉献湯式

### 10日・本えびす

忌籠神事のために9日の深夜12時に閉じられた表大門が午前6時に開かれると、外で待ち構えた参拝者が一番参りを競います。

### 11日・残り福

十日えびすの期間中、福笹が特別授与されるほか、約800軒の吉兆店や露店が軒を連ね、3日間で100万人を超える参拝者で賑わいます。



吉兆店



開門神事福男選び

# 十日えびすの歴史



(古神影札)

## 鎌倉時代

十日えびすの祭典は、かつて御狩神事みかりしんじと言われていました。この神事の内容は今ではわかりませんが、住吉大社に鎮座していた江比須社の神事次第には、巫女が男装して狩りの舞踏をするところがあります。鎌倉時代には実際に狩猟をして、その多寡によって豊稔を占う農耕儀礼の風習があったようです。年の始めに謹慎斎戒の忌籠を行ない、神意を窺って生産増強・繁栄を願う祭りに現在の十日えびすの原点があるようです。

【忌籠】祭典を行なう前に心身を清める事を忌籠いごりと言い、祭典が大きければ大きい程厳重に行なわれます。当社の忌籠は既に正元年間(1250年代)の古記録にもみることができますが、その記録が鎌倉時代にまで遡って文書に残されているのは貴重な事例です。

## 室町時代

永正17年(1520)の「長篇応仁記」という戦記文書には、摂津西宮辺の各家は1月9日の夜に食物をあらかじめこしらえて置き、門戸を閉じて西宮大明神の御神事の忌籠をしていたが、細川高国が兵を動かして地元の者に言葉を掛けたので、神罰を受けて戦に敗れたとあります。このことから十日えびすには、神社だけでなく、町をあげて厳重に忌籠が行なわれていたことがわかります。

【えびす信仰】当社に隣接して市庭町という市場を意味する町名が残されています。鯛を抱えたお姿からわかるように、海の守り神であるえびす様が貨幣経済の発展により、魚が取引される市場の守り神、商売繁昌の神となって行くと共に七福神信仰により福神として全国に広がって行きました。

## 西宮大宮



(古神影札)

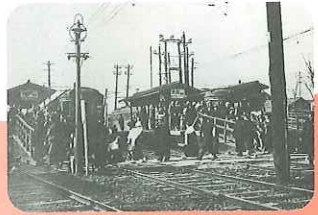
## 江戸時代

社務日記の記録によりますと、十日えびすに授与するお札の数量が、元禄(1700年代)のころから天明(1780年代)にかけて十数倍に激増し、吉兆や鯛売りの店数も多く終日賑わうようになってきました。忌籠(居籠)の風習も厳修され、えびす様が白馬に乗って市中を巡幸されるので、門松の松葉が馬を傷つけないように9日の夕刻、各家では門松を逆さにつけかえ、門戸を閉じ静かに夜の明けるのを待ち、早朝争って社参したと記されています。



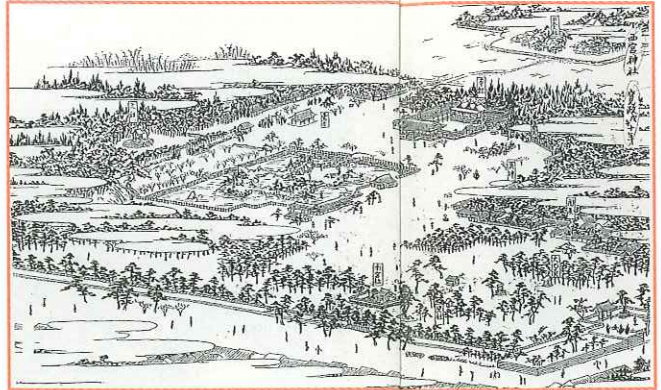
(忌籠の町家・江戸時代)

## 明治・大正時代



(参拝者で賑わう西宮駅・大正時代)

明治7年に鉄道(現在のJR)が開通し、西ノ宮駅が設けられると遠方からの参拝者も増えてきましたが、やはり9日の夕方になると町内各戸はすだれやむしろで戸を閉ざし、門松を逆さにします。その門松の大きさが2間(約4m)近くもあり、まるで山林に入ったような感じがしたそうです。静寂な宵が明けると街道筋の宿に泊っていた人達や四国や瀬戸内から船で乗付けた漁師が境内にだれだれ込んで来ました。明治に入り暦が変わりましたが、十日えびすは旧暦の1月10日に行なわれていました。しかし新暦の1月10日の参拝も多く、特に明治38年に阪神電車が開通すると近郊からの参拝者が急増し、明治41年からは新暦の1月10日に忌籠開門神事を行なうようになりました。大正9年に開通した阪急電車が神社近くに臨時駅を設けたり、運賃の割引など交通機関による参拝者誘致合戦の激化に伴い十日えびすの参拝者が激増して行きました。



(摂津名所図会・江戸時代)



(十日えびすの賑わい・昭和初期)

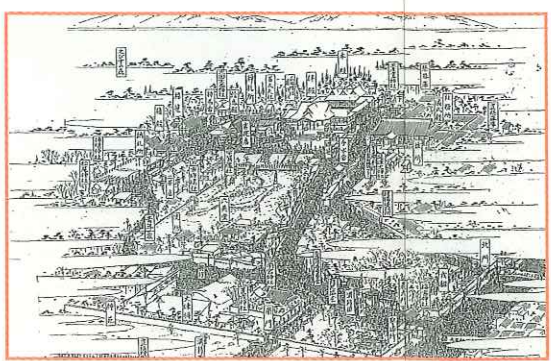


開門神事で何年も一番参りをされた参拝者を称えようと、昭和15年から先着の上位3名を福男として認定するようになりましたが、昭和20年の空襲により社殿が全焼、翌年の十日えびすから福男選びは中止されてしまいました。戦後は、昭和24年に南門が復興されたのを機に福男選びが復活、昭和45年からは大マグロの奉納、平成7年からは有馬温泉献湯式と新しい行事も加わってきましたが、忌籠は厳修され、1月9日の夜12時になると、どれ程の参拝者があっても全ての門を閉じ、祭典の終わる午前6時に表大門(赤門)を開くと、待ち構えた千人以上の参拝者が福を求めて本殿へ走り参りをし、3日間で百万人を超えるの参拝者で賑わいます。



(吉兆店・昭和初期)

## 昭和～現在



(十日或絵図・平成初期)

## 福男の

## その後

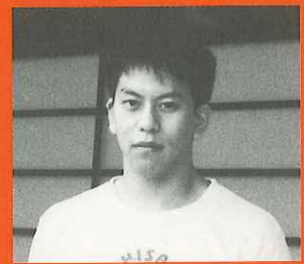
一月十日の午前六時、表大門が開かれると待ち構えた千人以上の参拝者が福を求めて本殿へ走り参りをします。福を求め、粘り強く、一瞬の好機をつかむ姿には、えびす様の鯛釣りに象徴されるような成功の秘訣があるのでしょうか。



平成12年一番福 吉田光一郎さん  
昭和53年9月生  
愛知県一宮市で水泳インストラクターとして活躍中。平成10年と12年の2回参加して2度共に一番福。



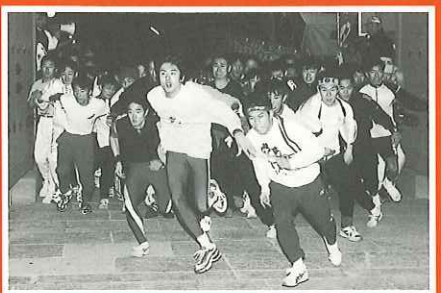
平成12年二番福 善齊健二さん  
昭和50年9月生  
西宮市消防局の救急隊員として活躍中。平成6年から7回連続参加して一番福2回、二番福4回。



「えべっさんに守られています」  
平尾 亮さん 昭和51年4月生  
仏教大学陸上部所属、平成9・10年と連続二番福の後、平成11年一番福まであと一步のところまで転倒。その年の12月にバイク事故で入院するものの奇跡的に回復へ。

今年も開門の十四時間前に来ましたが、十二時の閉門時には五十人以上になりました。参加者の良心に従って待機場所が無事決められた事に感動しました。念願のシドニー五輪には出場できませんでしたが、福男になって水泳教室の子供達の人気者になりました。

大阪体育大学を卒業後も訓練を積んで、救助技術指導大会では西宮市の代表となりました。6回も福男になったので、もう後進に道を譲りたいとは思っていますが、毎年隊長が視察に来ているので気が抜けません。この気概を忘れずに市民生活を守っていきたいと思ひます。



本来なら即死の事故でしたが、奇跡的に助かりました。毎年、誰よりも「懸命に参加してきた僕を、えべっさんが守ってくれた」と信じています。  
「一番福を狙う走りはもう無理かもしれませんが、一番を目指すことだけが「福男選び」の魅力ではありません。えべっさんに感謝する気持ちで、今後も参加し続けたいと思ひます。」



跳ね橋の下を優雅に巡幸する飾り船



雅楽の調べが流れる楽人船

戦国時代に途絶えたと言われる、みこしの船渡御が約四百年ぶりに復活しました。  
 雨上がりの薄日が差す中、みこしを乗せた御座船や童男・八乙女船、楽人船などの六隻の飾り船が西宮浜沖で優雅な時代絵巻を繰り広げました。

- 発興祭 (午後12時30分)
- お旅所祭 (午後2時)
- 出港 [遷御] (午後2時30分)
- 入港 [遷御] (午後3時30分)
- 還御祭 (午後4時)



お旅所祭での神楽奉奏



お旅所に向かうみこし行列



十二単衣をまとった八乙女行列



観客の拍手の中を巡幸する御座船

# 9月23日

## みこし渡御 四百年ぶりに船渡御再興



氏子町内から23基のみこしが巡行



浜脇中学校の brass バンド部による先導

- 宵宮祭 (午後5時)
- 子供みこし (午後5時30分)

平成七年の震災以来中断していた宵宮の子供みこしも五年ぶりに復活。浜脇中学校の brass バンド・パトントアラマーを先頭に子供達の元気な掛け声がこだましました。

9月21日

## 宵宮祭



例祭の祝詞を奏上する宮司



新調なった越木岩青年会のだんじりをお迎えする若戎会のだんじり



西宮まつり 奉納芸能大会

人気コンビチャらんぼらんさんの漫才

神社で最も重要な祭典である例祭に続いて午後からは稚児行列・だんじり巡行・奉納芸能大会が行なわれました。

- 例祭 (午前10時)
- 稚児行列 (午後2時)
- だんじり巡行 (午後4時)
- 奉納芸能大会 (午後7時)

9月22日

## 西宮神社例祭



84名の可愛いお稚児さんの行列



# 西宮まつり

## お祭りを支える人々

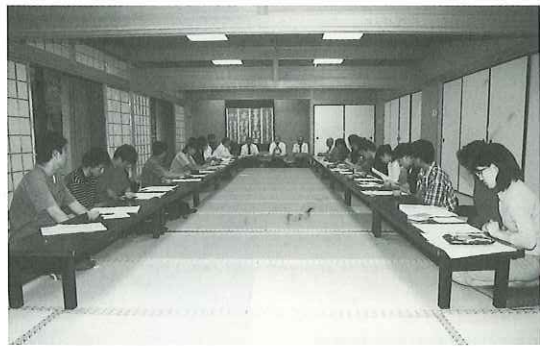
渡御祭にみこしを出すに当り、当社の氏子青年若戎会・世話人に加え氏子四校区自治会・安井地区体育振興会・西宮中央商店街・関西ヨットクラブ・新西宮ヨットハーバー・西宮郵便局・西宮市役所・鈴木油脂工業・関西学院大学・大阪芸術大学の有志の方々にご参加頂きました。又新聞・テレビ・ラジオなどの報道を通じて船渡御復興の様子を広くお伝えすることができました。ご協力の各位に感謝申し上げます。



みこしを担ぐ法被姿の参加者



プレス船での取材活動



社務所での熱心な打合せ

## 大手前大学の学生参加

祇園祭や天神祭の祭礼研究を通して都市人類学の研究を続けてきた大手前大学の米山学長が「祭りの意味や復興の経緯などについて、実際に参加して調べてはどうか」と、担当する講義の受講生に呼び掛けたところ、30名の男女学生が参加しました。当日は自作の幕やのぼりで飾った船で渡御行列に加わった他、男子学生は白丁姿でみこし行列にも参加しました。参加した学生は、400年ぶりに復興した船渡御の貴重な体験や地域と祭りとの関わりなどをレポートにまとめたいと話していました。



大手前大学の飾り船

旗を持って行列に参加する男子学生

## えびす信仰

……シリーズ 13

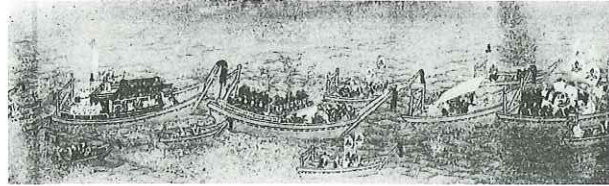


## 船渡御復興への歩み

### 船渡御の歴史

#### 日本第一の大神事

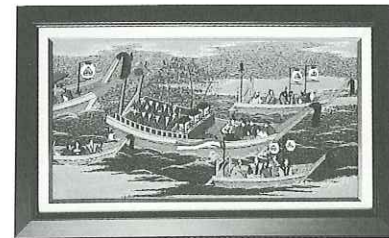
当社のみこしが旧暦八月二十二日に神戸の和田岬へ神幸していた事は、中山忠親の日記「山槐記」治承四年（一一八〇）八月二十二日の条に記されているのが、その初出です。現在国宝に指定されている鎌倉時代の絵巻「一遍上人絵伝」（正応二年・一二八九）にも、神幸の日に大輪田の真光寺での一遍上人と西宮神主との出会いが描かれています。



西宮大神本紀（海上神幸図）

で得たと言う御鎮座伝説に基づくものですが、約八百年前、福原（神戸市兵庫区）へ遷都を進めていた平清盛が神助を願うために招請したという説もあります。当社の神事の中でも最も賑やかであったこの神幸も寛永十一年（一六三四）に幕府に提出した覚書によると、織田信長による社領没収以来廃絶してしまったようです。往時の海上船渡御の華やかな様子は、近世中期の作と言われる絵巻物「西宮大神本紀」から窺い知ることができるとなっています。

船渡御の廃絶後は、祭典のみが厳修され、明治以降は新暦の九月二十二日に改められて「例祭」として斎行されてきました。昭和二十九年からは例祭の後、みこし行列が市内を巡幸する渡御祭が再興されましたが、平成七年の阪神大震災以降中断してしまいました。当社の震災復興も平成十一年の三月に完了したのを契機に復興のシンボルとして渡御祭に合わせ約四百年ぶりに海上船渡御も復興しようという機運が高まり、氏子町内会や西宮中央商店街が中心となって「西宮まつり協議会」が結成されました。協議の結果、渡御祭は九月二十三日の祝日に行ない、宵宮の二十一日から三日間に亘って行なわれる神賑行事を含めて「西宮まつり」と名付けて西宮全体の活性化に繋がるような催しにして行く事となりました。船渡御のコースも新しく造成された西宮浜の周辺とし、そこを本拠地とする新西宮ヨットハーバー、関西ヨットクラブのご協力に加え、氏子・崇敬者ご有志の方々からの寄付により船渡御実現の運びとなりました。さらに船渡御再興の当日、朝来豪雨だったのにも関わらず、実施予定の午後には一滴の雨粒も降らなかった事は、正にご神意と言えましよう。



海上神幸図を基に製作された記念額

### 復興に向けて

#### 氏子・崇敬者のご協力を受けて

#### 船渡御に参加して



大手前大学 学長  
米山俊直

今年秋の例祭に約四百年途絶えていた船渡御が復活するという事で、私は新設の社会文化学部の学生ボランティア諸君と一緒に参加しました。神社に何回か集まり、まつりの趣旨や西宮まつり協議会のメンバーの熱意をお伺いしました。学生の役割も決まり、本番前日には深江港での船の飾り付けも終え、神社にも参拝。いよいよ当日の二十三日は、しつこく雨の中を神社に集合しました。船渡御決行の決定は正午になりましたが、不思議に雨があまり、以後一滴も降らずに無事渡御ができました。これは神様が御嘉納いただいた証だと、たいへん嬉しく思いました。私は、人文学部の先生らと共に、えびす信仰研究会を過去三年間やってきました。その成果をまとめるべく、努力しています。えびす様のご加護で、なんとか実現したいと思っています。